

【報道関係者各位】

2026年5月19日

新潟フードテックタウン(NFTT)のスタートアップコミュニティ 「フードテックグラウンド(仮称)」創設 キックオフイベントを開催 ～高齢者の食課題・アグリ・養殖、調達など多様な切り口の食領域のスタートアップ各社が集結～

オイシックス・ラ・大地株式会社とNSGグループが立ち上げた新潟フードテックタウン(以下、NFTT)を推進する組織である新潟フードテックタウン実行委員会(共同委員長:池田 弘、高島 宏平、以下NFTT実行委員会)は、2026年4月15日(水)に、フード領域のスタートアップの事業成長を加速するためのコミュニティ「フードテックグラウンド(仮称)」を創設しました。フードテックグラウンド(仮称)は、スタートアップが事業において直面する”壁”を突破することを目的に発足しました。同日には、新潟市中央区の「oO SPACE Niigata」にてキックオフイベントを開催し、初開催ながら地元新潟だけでなく東京のスタートアップも含む計7社が参加し、熱気ある議論がなされました。今後の初回イベントは2026年5月26日(火) HARD OFF ECOスタジアム新潟で行う予定です。

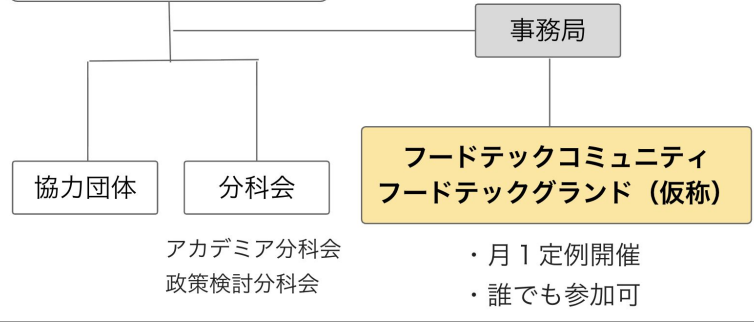


▲キックオフイベント開催の様子

〈NFTT実行委員会〉

全体会(名誉職、委員)

- 産(経済界)
- 官(行政)
- 学(大学)
- 金(金融機関)



■フードテックグラウンド(仮称)について

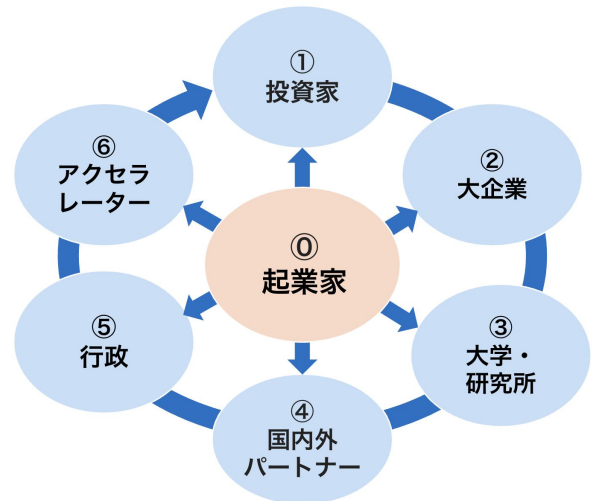
フードテックグラウンド(仮称)は、NFTTにおける「フードテックコミュニティ」の名称です。スタートアップが事業課題を解決するために作られました。NFTT委員会の中に設置され、定期的にイベントを開催し、誰でも参加可能なコミュニティとして位置づけられています。モデレーターをスタートアップの株式会社LacuS代表の古津瑛陸が務めます。単なる成功事例の発表の場ではなく、スタートアップ同士が率直に意見を交わし、その場で具体的な商談やマッチングを動かし、エコシステムを動かす主要なプレイヤーであるスタートアップ自身が主体となり、オイシックス・ラ・大地やNSGグループが企業や支援者を招致して直接議論を行い課題解決に導くための組織です。

〈新潟フードテックタウンにおけるエコシステムのイメージ〉

■モデレーター／株式会社LacuS 代表取締役 古津瑛陸氏コメント



私自身、フードテックタウンとそのエコシステムを活用している起業家の1人です。新潟発でスタートアップを立ち上げ感じたこととして、新潟は食に関わるアセットが十分にあるのにも関わらず、スタートアップを活用する事例が少ないということでした。この度、立ち上がったコミュニティでは、全国の次世代フードテック起業家を集め「新潟」だから出来る価値創造を全員で創り上げてまいります。



本リリースに関するお問い合わせ

新潟フードテックタウン実行委員会事務局(オイシックス・ラ・大地株式会社 広報室内)

TEL: 050-5305-0549 E-mail: publicity@oisixradaichi.co.jp

(上記内容は断りなく変更される場合があります/最新情報は上記お問合せ先までご連絡ください)

■キックオフイベント開催概要

名称：フードテックグラウンド(仮称)キックオフイベント

日時：2026年4月15日 18:00～21:00

場所：oO SPACE Niigata(新潟市中央区古町)

参加者：スタートアップ代表7社、
エスイノベーション株式会社 代表取締役 星野 善宣 氏
Future Food Fundファンドマネージャー・キャピタリスト



(次第)

- ・オープニング・乾杯 / NFTT・フードテックグラウンド(仮称)の説明
- ・スタートアップ各社ショートピッチ
- ・グループセッション
- ・Future Food Fund交流セッション
- ・締め & NFTTサミットのご案内

【登壇スタートアップ一覧】

株式会社LacuS: 高齢者向け完全栄養食の開発・提供

株式会社vitom: 一年間保存できるお米型の携帯食「おにもち」の販売

株式会社里山パブリックリレーションズ:【通い農事業】都市住民が里山に通って耕作する「通い農」を事業化。企業向け棚田研修と会員制の農コミュニティを運営。【PR事業】フード・アグリ領域やインパクトスタートアップに特化したPRコンサルティング

株式会社Playeria: 日本の農家さんが育てる野菜を、特許技術を用いてペットフードへ加工させ、D2Cサブスクリプションモデルで展開するNOUEIを運営

株式会社for Crafts: 調達AIエージェント「CRFT(クラフツ)」を運営

株式会社佐渡活: 佐渡市にて、春～秋は植木業、冬は加茂湖で牡蠣養殖業を運営

株式会社魚沼スポン: 温泉を活用したスポンの養殖事業を運営

■当日の様子

イベントの冒頭でNFTT/フードテックグラウンド(仮称)の説明がされた後、ベンチャーキャピタルのエスイノベーション株式会社代表 星野 善宣氏が登壇。”シード期の起業家に寄り添う積極的な投資姿勢”が語られ、参加スタートアップにとって非常に心強い指針が示されました。続くスタートアップ各社によるショートピッチでは、各社が事業内容と「今、目の前にある壁」を赤裸々に発表。その後のグループセッションでは、スタートアップ同士で課題解決のヒントを共有し合うだけでなく、お互いのアセットを掛け合わせた共創の可能性についても熱く議論されました。同じ志を持つプレイヤー同士だからこそ、利害を超えて日本の食をどう底上げするかという視点で手を取り合う、フードテックグラウンド(仮称)が目指す連帯感が生まれた瞬間でした。

オイシックス・ラ・大地が運営するフード領域に特化したCVC、Future Food Fundとの交流セッションでは、スタートアップの事業に対して投資判断のリアルな基準を語る場面も見られました。「なぜ、今のままではあなたに投資しないのか」というテーマで普通のコミュニティであまり語られない、直言が飛び交いました。この本音の壁打ちこそが、スタートアップの視座を一段引き上げ、明日から取り組むべき課題を明確にしました。参加者からは、「卸先のバイヤーを紹介してほしい」「新潟の食品工場と繋がりたい」といった具体的かつ切実なニーズが次々と上がり、本コミュニティへの高い期待が寄せられました。

今回のキックオフイベントを経て、フードテックグラウンド(仮称)は今後、参加スタートアップを全国からより広く募り、単なる交流にとどまらない「売上貢献」や「Exit(出口戦略)サポート」までを見据えたプログラムを設計していく予定です。「フードテックで勝負するなら、新潟を活用するのが最も成功確率が高い」そう確信してもらえる場所にするため、活動してまいります。



(今後の予定)

- ・月1(最終週火曜日、18時～)の定期的な交流会の実施
- ・スタートアップを大企業やVC、大学関係者や行政担当者とのコミュニケーション機会を企画
- ・2026年5月26日(火)は「オイシックス新潟アルビBCを応援しながらフードテックタウンを語る会」をHARD OFF ECOスタジアム新潟で実施予定

本リリースに関するお問い合わせ

新潟フードテックタウン実行委員会事務局(オイシックス・ラ・大地株式会社 広報室内)

TEL: 050-5305-0549 E-mail: publicity@oisixradaichi.co.jp

(上記内容は断りなく変更される場合があります/最新情報は上記お問合せ先までご連絡ください)

新潟フードテックタウン(NFTT)について

「新潟フードテックタウン(NFTT)」は、オイシックス・ラ・大地とNSGグループが推進し、新潟に世界有数のフードテックエコシステムを構築するプロジェクトです。日本の優れた食文化や技術を国際競争力へと結びつけるため、新潟が有する豊かな食資源や伝統的な発酵技術、食品企業・研究機関の集積といった強みを活かします。産官学金が連携しフードテック特化型ファンドによる資金供給から、大企業と連携した実証実験、グローバルパートナーを通じた海外展開までを包括的に支援します。

500社のスタートアップ創出と累計売上5,000億円の実現を目指し、食産業の活性化と社会課題解決に取り組むとともに、日本の食産業の国内での成長やグローバル展開を推進していきます。食料安全保障や健康課題への関心が高まる中、食を起点とした産業創出を通じて、日本の食産業の競争力強化と持続的成長に貢献することも狙いとしています。

URL: <https://niigatafoodtechtown.jp/>



Future Food Fund(FFF)について

Future Food Fund株式会社は、2019年8月に日本の食のスタートアップエコシステムを作る為に、フードイノベーション領域に特化した国内外のスタートアップ企業への出資を目的としたCVCファンドを運営する投資子会社として、オイシックス・ラ・大地株式会社により設立されました。パートナー企業とともに、国内外の先進的な食・農・ヘルスケア領域への積極的な投資と、販売や商品開発などの支援も可能としており、日本国内で、スタートアップ企業を支援するエコシステムの構築を目指しています。

URL: <https://futurefoodfund.co.jp/>



本リリースに関するお問い合わせ

新潟フードテックタウン実行委員会事務局(オイシックス・ラ・大地株式会社 広報室内)

TEL: 050-5305-0549 E-mail: publicity@oisixradaichi.co.jp

(上記内容は断りなく変更される場合があります/最新情報は上記お問合せ先までご連絡ください)